

研究主題

今までとはちがう自分に気付こう!
～PBLにおける対話と振り返りの充実～

I 主題設定の理由

本校は昨年度「自分の“なぜ?”を探究し続けよう! これがわたしの学ぶ道!」として、プロジェクト型学習の中でも、「計画する力」を重点にして、ゴールに迫る手立てを自ら計画することを目指して研究を進めてきた。

★効果のあったこと

各学年の実態に合わせてプロジェクトの見通しをもてるような手立てが効果的だった。低学年は山登りやすごろくを模したものなどで、自分が今プロジェクトのどの段階にいるのかが視覚的に分かるものになっていた。中学年では、計画する時に、情報活用の方法を知る「計画カード」を導入した。また、身に付けさせたい力の伸び方を帯グラフのようにして記録することで「前よりももっと成長したな」と実感できた児童もいた。高学年では、目指す具体的な姿を教室内に掲示した。総合的な学習の時間だけでなく、他の教科や学校行事でも振り返る時に効果的であった。

★課題として考えられること

「計画する力」に関しては児童の意識も教師の環境づくりのスキルも高まったが、活動の終末は探究内容の発表が中心となってしまうがちで、個々の力の成長の実感は限定的である。また、ゴールにたどり着くと、次年度への各自の課題意識が低くなりがちになる。また、振り返るタイミング、量、内容によっては自身の成長を感じづらい振り返りになってしまう。

そこで本年度は、身に付けさせたい力のうち、「自分を見つめる力」を重点項目として研究を進めたい。児童がプロジェクトを終えた時(3学期ごろ)に、「自分は何を成し遂げたのか。そして、なぜそれを達成できたのか。さらに成長するには、これから先に何をすべきなのか」が言語化できることを目指す。そのために、毎時のめあてと振り返りが欠かせない。しかし、本校児童はめあてや活動を決定できても、1時間の活動をふり返って言語化することに苦手があるようだ。そこで、自分の考えをアウトプットする「対話活動」とそこでアウトプットされた言葉をつないで言語化する「振り返り活動」の二本立てで取り組むことを提案したい。

以上の理由から、今年度は、「今までとはちがう自分に気付こう!」を研究主題として設定した。

2 研究の方法

(1) 本校の子どもたちに身に付けさせたい力と具体的な姿（参考：砂田橋小学校の研究実践事例より）

令和7年度 重点研究項目「自分を見つめる力」

教科	生活科		総合的な学習の時間			
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
見つける力	やってみたいことをみつけることができる。	やってみたいこと、しりたいことをみつけることができる。	ぎ問を見つけることができる。	ぎ問を見つけることができる。	ぎ問を見つけることができる。	疑問、取り組みたいことを見つけることができる。
計画する力	めあてをもつことができる。	めあてをもつことができる。	ゴールをはっきりさせて取り組むことができる。	ゴールまでの見通しをもって取り組むことができる。	ゴールまでの見通しをもって取り組むことができる。	ゴールまでの見通しをもって取り組むことができる。
				計画をたてることができる。	計画をたてて、見直し修正することができる。	計画をたてて、見直し修正することができる。
ねばり強く 取り組む力	ひつようなものをあつめることができる。	ひつようなものをあつめることができる。	じょうほうを集めてせい理できる。	じょうほうを集めてせい理できる。	情報を集めて整理し、自分の考えをまとめることができる。	情報を集めて整理し、自分の考えをまとめることができる。
			ねばり強く取り組むことができる。	ねばり強く取り組むことができる。	最後まであきらめずに取り組むことができる。	最後まであきらめずに取り組むことができる。
考えを伝える力	わかったこと、かんがえ、おもいをつたえることができる。	わかったこと、かんがえ、おもいをつたえることができる。	事実と考えを区べつしてつたえることができる。	事実と考えを区べつして伝えることができる。	根きよをしめして、考えを伝えることができる。	根拠を示して、考えを伝えることができる。
	ともだちにおしえることができる。	ともだちにおしえることができる。	自分がえらんだ方法でつたえることができる。	適切な方法で表現できる。	適切な方法で表現できる。	適切な方法で表現できる。
協働する力	ともだちにアドバイスをしたり、してもらったりできる。	ともだちと力を合わせるができる。	友だちときょう力することができる。	友達と協力することができる。	友達と協力して取り組むことができる。	友達と協力して取り組むことができる。
	よいところを見つけ、まねできる。	よいところを見つけ、まねできる。	自分とちがう考えを大切にできる。	自分とちがう考えを大切にできる。	自分とちがう考えを大切にしながら、新しい考えを見つけることができる。	自分とちがう考えを大切にしながら、新しい考えを見つけることができる。
自分を見つめる力	よかったことやできなかったことを、かいたり、えにしたりすることができる。	きづきやはっけんしたことを、かいたり、えにかいたりすることができる。	うまくいった、いかなかった理由を考えることができる。	うまくいった、いかなかった理由を考えることができる。	うまくいかなかった、いかなかった理由を考え、次にやることを考えることができる。	うまくいかなかった、いかなかった理由を考え、次にやることを考えることができる。
			学年・学校の一人として考え、行動できる。	学校や地域の一員として考え、行動できる。	地域・社会の一員として考え、行動できる。	地域・社会の一員として考え、行動できる。

(2) 実現するための手立て
〈プロジェクト型学習の流れ〉

1	課題を見つける	経験を増やす活動を行う。 (ゲストティーチャー、校外学習、出前授業、図書館の団体貸し出しの活用)
2	ゴールを決める	見つけた課題から、自分のゴールを決める。 (班での活動の場合、班のゴールとなる場合もある。)
3	計画を立てる	・課題解決までの計画を立てる。 ・ログブックなどのワークシートを活用し、ゴールまでの見通しがもてるようにする。 ・探究の途中で計画の見直しを行い、適宜修正する。 (学年の実態に応じて、教師が支援する)
4	調べる・探究する	・課題を解決するために、調べたり、実践を行ったりする。 ・班の仲間と協力して探究する。 毎授業の終わり:短時間の少人数対話をして振り返る 探究の中間地点:プロジェクトの開始当初からの自分の変化・成長を確かめる。
5	発表する	成果を他者に伝える。校内、保護者、地域、など実態に応じて選ぶ。
6	振り返る ※本年度重点項目 「自分を見つめる力」	・探究した全体の内容を振り返る。 ・自分自身がどう成長したかを振り返る。 ※必要に応じて探究の途中で振り返ったものを使う。
7	報告する	・報告会を開く。(3学期授業参観を予定) ・自分の成長を客観的にとらえ、次に生かすための行動を考える。

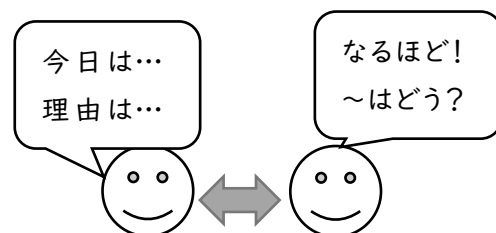
計画の修正

成長の足あと

〈振り返りの充実のための手だて(例)〉

①他者との対話

ペア(または3人程度の少人数)で本時の活動を振り返る。



対話による振り返りペアトーク(例)

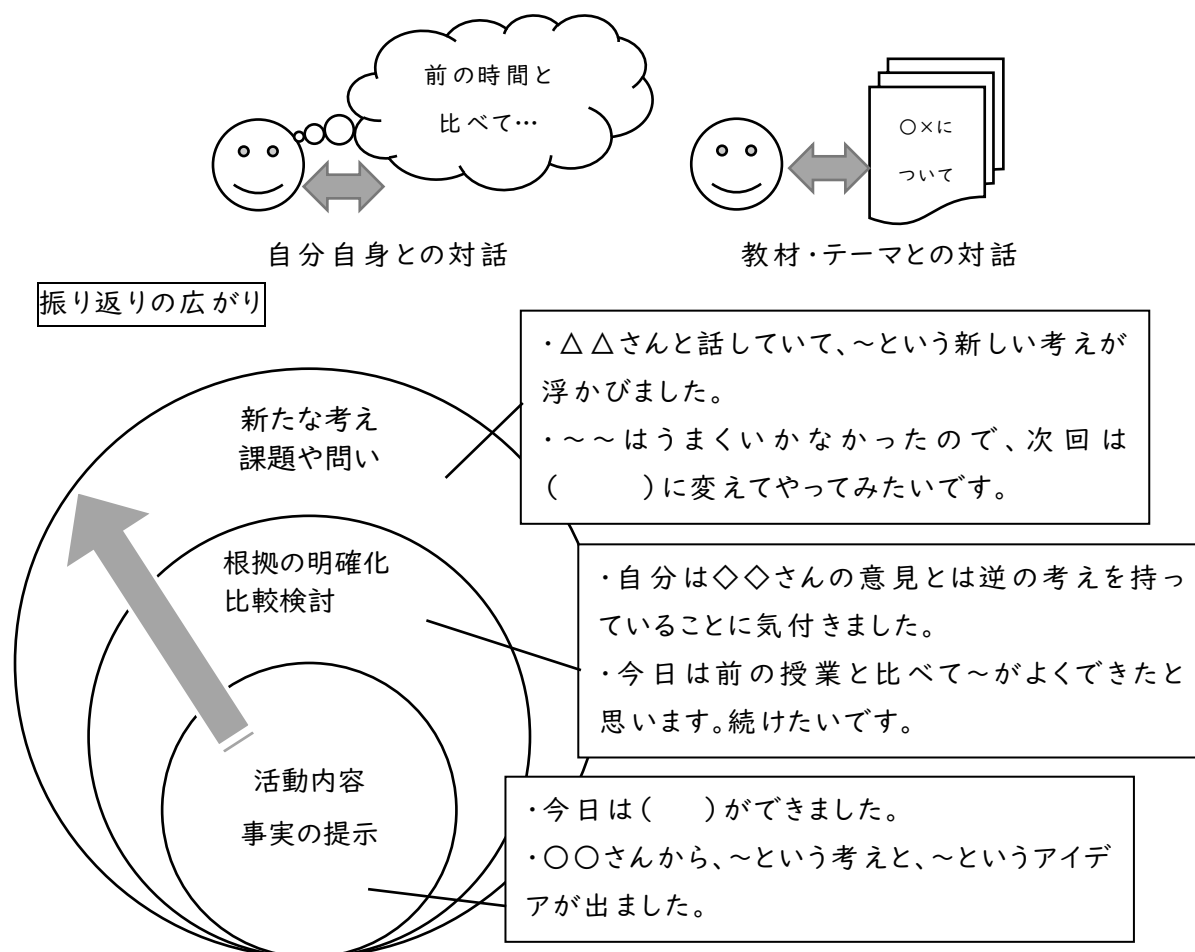
- ・今日のめあては()だったよ。
- ・わたしは、～ができたんだ(できなかったんだ)。
なぜかという、～の力を使って～したから(～しなかったから、できなかったから)だと思う。
- ・次は、()に挑戦してみたい!。

※話型自体を示しても、項目だけ示してもよい。

※場合によっては、「話してみたら、これ(内容)でいいのか分からなくなった。迷った」ということも考えられる。しかし、対話の経験、言語化することの積み重ねを重視したい。

②自分自身との対話+教材・テーマとの対話

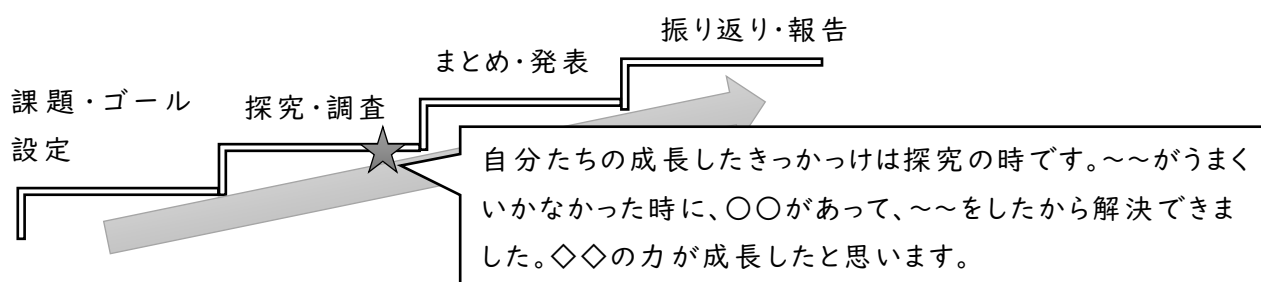
①の対話で出てきた言葉をつないで記録する。活動内容とともに、本校が目指す児童に身に付けさせたい力や具体的な姿を意識して書く。



振り返りの記録は、には、学習りれき図(「プロジェクト型学習のためのログブック 記録ノート Stage1」より)等を活用し、探究活動内容の記録と振り返りが児童にも教師にも無理なく継続できるようにしたい。

③プロジェクト全体の振り返りと報告会

プロジェクトの内容の発表会と身に付けさせたい力がどれほど高まったかを報告する会は別で設定する。報告会では、プロジェクト開始時の自分の姿と終了時の姿を比べ、班の仲間や教師と対話したり、学習履歴図を振り返ったりしながら、根拠をもって自分たちの力が高まったポイントを示せるようにする。



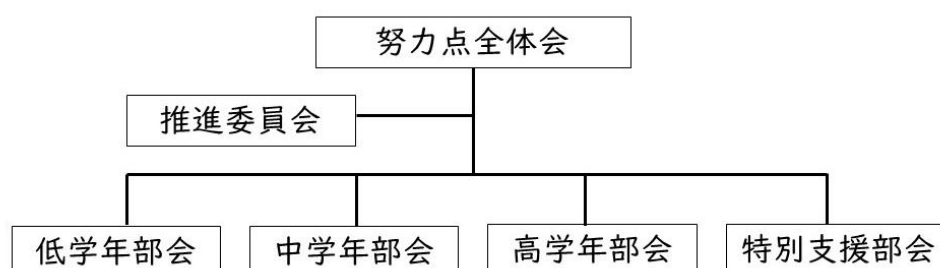
(3) 実践の方法と評価

- 各学年同じ単元・テーマで学年一体となつて行う。公開授業も学年単位で行う。(年2回)
- 公開授業を行う日時とどの段階・内容を公開するのかを一週間前までに全職員にスズキ校務の掲示板で周知する。(推進委員が公開日時を職員室前のホワイトボードにも記載)
- 単元全体の流れがわかる計画案を作成する。その際、具体的な児童の姿を予想した評価計画も同時に作成する。具体的な姿は児童にも常時提示できるようにする。
- 低・中・高学年部会に分かれて、年度の最初と最後に部会を開き内容や成果と課題を検討する。(4年間計画 参照)
- 公開授業は所属しない学年部会の授業も参観し、学校全体の探究が深められるようにする。
- 保護者には学校だよりの努力点授業に関するページで紹介する。(月1回)
- 保護者アンケート、児童アンケート、教職員アンケートを行い、実践方法や手立てが有効であったかを評価する。

(4) 各学年の実践テーマ・題材(例)

- 1年:生活科「あきと ともだち」 など
- 2年:生活科「あそんで作ってくふうして」「みんながつかう まちのしせつ」など
- 3年:総合「学区の魅力」…2年生の生活科をさらにパワーアップするなら?
- 4年:総合「福祉・健康」…自分もみんなも幸せになるために
- 5年:総合「環境・防災」…自分の力でよりよく、安全に暮らすために
- 6年:総合「学区を盛り上げよう」…これまでに高めた力を使って、地域のために行動するなら?

3 研究の組織



4 年間計画

学期	月	日	曜		内容
I	4	4		推進委員会	研究計画案の検討
		11		全体会	研究計画の周知
				学年部会	具体的な内容・実践時期の検討
				低中高特別支援 各部会	各学年のテーマ確認・内容検討
	5			学年部会	実践に向けての準備・確認
	6			学年部会	//

2	8			研究推進校への視察、資料の収集など	
	9			全体会	実践内容についての報告 意見交流
	12			推進委員会	「最終報告書」について検討
3	1			低中高部会	本年度のまとめ、次年度への計画
	2	26		全体会	最終報告会
	3			推進委員会	次年度研究計画の方針

参考 名古屋市立矢田小学校 HP <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/yada-e/>

名古屋市立砂田橋小学校 研究実践事例（資料は職員室フォルダの中にあります。）

職員室 → 03努力点 → ★努力点推進 → 砂田橋小資料